



333 East 47th Street

New York, NY 10017

japansociety.org

**FOR IMMEDIATE RELEASE**

<プレス・リリース>

配信日:2021年12月1日

プレス担当:

マリカ絵美 ([EMarica@japansociety.org](mailto:EMarica@japansociety.org))

アリソン・ロッドマン ([ARodman@japansociety.org](mailto:ARodman@japansociety.org))

**ジャパン・ソサエティー(JS)**

**リビング・トラディションシリーズ**

**オンラインセミナー第四弾**

**Architecture as Environment: A Conversation with Kengo Kuma and Toshiko Mori**

『隈研吾・森俊子が語る環境と建築』

**12月15日(水)午後7時00分～8時15分＊米国東部標準時**

**午後4時00分～5時15分＊米国太平洋標準時**



Left: Yusuhara Wooden Bridge Museum ©Takumi Ota; Right: Photo: Paul Warchol

JSは12月15日(水)、「リビング・トラディションシリーズ」の第四弾オンラインセミナー『隈研吾・森俊子が語る環境と建築』を開催します。

現在最も影響力のある建築家の一人である隈研吾氏と、学者であり実務家でもある森俊子氏をお迎えし、現代における建築物と自然環境の関係性を探求します。日本建築は、何世紀にもわたり受け継がれてきた職人技に基づく多様性や創意工夫及び自然との独特的な調和を提供しており、実務家や愛好家の間で、世界の中でも最も遅く、ダイナミックかつ表現力豊かなプラットフォームの一つとして知られています。本ウェビナーでは、日本の建築景観が環境への学際的なアプローチを通じて生ずるシナジーを取り込みながら転換していくにつれ、変化する我々のコミュニティへの意識や自然との関わり合いについて扱います。

**アジェンダ：**ディスカッション、Q&A 午後7時00分～8時15分（米国東部標準時）/午後4時～5時15分（米国太平洋標準時）

**参加費：**無料 （参加には事前登録が必要です）

**登録方法：**[こちら](#)よりご登録ください。

\*本オンラインセミナーはYouTubeにて配信します。事前登録いただいた皆様に、イベント当日に視聴リンクをお送りします。

\*オンラインセミナー中は、YouTubeを通してスピーカー・モデレーターにご質問いただけます。

\*本オンラインセミナーは、英語で行います。

## スピーカー

### 【隈研吾氏】

1954年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。

1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を

横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、（日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他）、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。

### 【森俊子氏】

TOSHIKO MORI ARCHITECT PLLC 建築事務所創立者兼CEO。ハーバード大学院教授であり、1995年にハーバード大学院デザインスクール教授就任同時にTENUREを取得。2002年から2008年まで同建築学部の学部長を務める。2009年にシンクタンクのVISIONARCを創立。2013 PARACOUSTICA 音楽を僻地へ届ける非営利団体を共同設立する。フランスDASSAULT SYSTEMES社外取締役。最近では、2021年度イサム・ノグチ賞、2020年にニューヨーク市博物館のルイ・オーシンクロス賞、2016年にACSA タウ・シグマ・デルタ国民栄誉賞ゴールドメダル、2019年にArchitectural RecordのWomen in Design Leader賞を授与される。また、プロジェクト「Fass School and Teachers' Residence」で2021年AIA Architecture Awardを受賞するなど数々の受賞歴を持つ。昨年の著書・出版物にa+u誌の2020年2月号とArchiTangle Berlin出版「Toshiko Mori Architect: Observations」がある。

### インタビュアー

#### 【ボトンド・ボグナー教授】

ハンガリー・ブダペスト出身。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校エドガー・A・ターフェル建築学教授。ブダペスト工科大学 学士号(1968年)・修士号(1972年)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校建築都市計画学 修士号(1981年)を修得。文部省(現・文部科学省)の奨学生を得て1973年から1975年まで東京工業大学で研究。建築家としてハンガリーと日本で活動し、滞日経験も数年におよぶ。

日本建築の歴史と理論の研究者として国際的に知られるボグナー教授は、20以上の著書や研究論文を含む著作活動を精力的に行う傍ら、世界各地で講演を行う。また、グラハム財団(Graham Foundation)や社会科学研究会議(Social Science Research Council)、国際交流基金など、フェローシップや研究助成金も多数授与されている。大学研究者でありイリノイ大学Center for Advanced Studyのアソシエイトでもある。日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞。

## モデレーター

### 【ケン・タダシ・オオシマ氏】

ワシントン大学教授。建築史協会(S.A.H.)の理事長(2016-18)。著書・共書に『Kiyonori Kikutake Between Land and Sea』(Lars Müller, 2015)『グローバル・エンズ：始まりに向けて』(Toto, 2012)『Arata Isozaki』(Phaidon, 2009)、『International Architecture in Interwar Japan: Constructing Kokusai Kenchiku』(University of Washington Press, 2009)、『Visions of the Real 20世紀のモダン・ハウス：理想の実現I・II』(a+u特別号、2000)などがある。

本イベントは、全5回「リビング・トラディションシリーズ」の第4弾として開催されます。

## リビング・トラディションシリーズ

世界を惹きつけてやまない日本文化の精髄は、何世紀にもわたる伝統に根ざしていると言えます。「リビング・トラディションシリーズ」では、5つの異なるテーマについて多様なスピーカーを迎え、今日人々に親しまれている日本文化の諸相を歴史的に紐解きつつ、確固たる伝統が現代社会でどのように継承されているかを議論します。

**取材お申し込み：**取材のお申し込みは、プレス担当：マリカ（日本語）／ロッドマン（英語）までEメールで([Emarica@japansociety.org](mailto:Emarica@japansociety.org)/[ARodman@japansociety.org](mailto:ARodman@japansociety.org))ご連絡下さい。

本オンラインセミナーは、ポートランド日本庭園財団の共催及び日本政府の支援により開催しております。

ジャパン・ソサエティートーク+（プラス）プログラムは、MUFG (Mitsubishi UFJ Financial Group)及び ORIX Corporation USA のスポンサーにて開催しております。また、匿名ドナー、the Sandy Heck Lecture Fund 及び, Helen and Kenneth A. Cowin 氏にも多大なご支援・ご協力をいただいております。

#### JSについて：

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエーターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は [www.japansociety.org](http://www.japansociety.org) をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

#### 公式SNSアカウント：

Facebook：[facebook.com/japansociety](https://facebook.com/japansociety)

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/@japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/@japansociety)

その他、詳しい情報は弊会ウェブサイト [https://www.japansociety.org](http://www.japansociety.org) をご参照ください。

## ポートランド日本庭園財団について：

ポートランド日本庭園財団は、第二次世界大戦後の日米両国間の文化理解の場として 1963 年に創立されたアメリカ合衆国の公益財団法人です。世界恒久平和の希求と二国間の人的交流、そして異文化理解の探求を礎に民間で発足した本財団は、時を経てポートランドを代表する庭園文化団体となり、日本国外にある中でも最も本格的な日本庭園と認められるまでに成長しました。年間来場者数 50 万人を超えるポートランド日本庭園は、憩いや癒しの場としての従来の庭園像だけでなく、広くアートや文化というレンズから見た各種プログラムを提供すると共に国境を超え、人類の多様性理解を深める多様なプロジェクトを推進しています。

庭園の最新情報は、[フェイスブック](#)、[インスタグラム](#)、[ツイッター](#)、[YouTube](#) をご覧ください。

# # #